

事業評価シート

番号 2060090 - 001

【1.基本情報】

事業名	図書館利用推進事業				
担当部署	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和33年度～	年度	根拠法令 関連計画※	図書館法	

【2.事業概要】

事業の目的	市民が心豊かで文化的な生活を送るため、読書推進を図るとともに学習を支援する。	
事業の内容	図書館資料の閲覧や貸出事業、レファレンス事業及び住民の学習支援のための蔵書の充実、読書推進のための各種行事の開催	
事業の対象	何を	図書館資料や情報
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民及び市内在勤・在学者
	どのくらい (具体的 数値で)	図書館蔵書資料の充実
令和元年度 (実施内容)	図書資料の充実を図るとともにボランティアと協働でおはなし会や本を媒介と資料の充実で人とまちをつなぐ各種イベントを開催するなど、図書館の利用推進を図った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	164,840	5,200	164,840	5,200	176,800	5,200
嘱託職員	165,542	16,072	164,697	15,990	166,296	15,990
アルバイト	18,653	4,055	18,593	4,042	18,593	3,956
計(A)	349,035	25,327	348,130	25,232	361,689	25,146

(2)物にかかるコスト

直接経費		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
【直接事業費】 (B)		178,110	168,749	168,749
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	図書購入費	76,779	74,609	74,609
	雑誌等購入費	12,198	12,247	12,247
	施設管理	72,694	64,681	64,681
	集配・返却等業務委託	16,439	17,212	17,212
減価償却費 【施設管理】※ (C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		178,110	168,749	168,749

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	527,145	516,879	530,438

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他	4,120	21,518	4,549
計(F)	4,120	21,518	4,549

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	523,025	495,361	525,889

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	図書館利用者	図書館利用者	図書館利用者
受益者数	701,346	688,101	709,532
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	746	720	741

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	蔵書数	単位	冊
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	770,000	800,000	820,000
実績値	766,970	794,079	815,304

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	貸出数	単位	千冊
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2,500	2,500	2,500
実績値	2,484	2,458	2,295

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	図書館は学習や情報基盤の拠点として、広く市民等に利用される施設である。 市民等の身近な生涯学習施設として不可欠である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	図書資料の貸出・返却拠点を増やし、学校連携事業や近隣市町村との相互協力等を実施し、図書館の利用を推進する。 地域ボランティアや協議会等と協働して、各種事業を実施する。また、委託により効率的に業務実施が可能なものは積極的に委託し、円滑に図書館を運営する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	貸出利用者数は前年度を上回っている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	あらゆる世代の利用者に満足していただけるような図書資料の選書と収集に努めている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	地域住民の生涯学習を推進する拠点として、広く住民等に利用される施設を目指して、多様なニーズに応えられるような手厚いサービスを提供する。

事業評価シート

番号 2060090 - 002

【1.基本情報】

事業名	岐阜市読書サークル協議会補助金				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体育成補助金	実施主体	岐阜市読書サークル協議会
実施期間	昭和49年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	岐阜市内にある約40の読書サークルを束ねる唯一の団体であり、当該協議会の活動を支援、育成していくこと通して、市域における住民の読書活動及び生涯学習の推進を図る。	
事業の内容	文学講座、研修会等を実施し、地域の読書サークルの活動を推進する協議会に対し育成補助を行う。	
事業の対象	何を	協議会の育成及び活動に対する支援
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市読書サークル協議会
	どのくらい (具体的 数値で)	協議会が開催する講座や会報発行等の事業に必要な経費の一部
令和元年度 (実施内容)	当該協議会の事業が円滑に実施できるよう育成補助するとともに多くの市民が参加する文学講座の開催を支援。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	444	14	444	14	476	14
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	444	14	444	14	476	14

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		103	103	103
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	運営補助金	103	103	103
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		103	103	103

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	547	547	579

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	547	547	579

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	協議会加入サークル	協議会加入サークル	協議会加入サークル
受益者数	42	42	46
受益者負担額(千円)	984	966	971
受益者負担率(%)	180.0%	176.7%	167.7%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	13,019	13,019	12,587

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講座実施回数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	36	36	36
実績値	36	36	33

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講座参加者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2,460	2,580	2,580
実績値	2,676	2,556	2,343

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	地域に根ざしたサークルの読書普及活動を支援し育成していくことは図書館の役割である。 市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は公立図書館が実施すべき施策であり、当該協議会の活動は図書館の施策に沿っている
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	当該協議会の活動を支援し、図書館と連携した事業として実施。 当該協議会が主体的に活動を行うことにより、効率的な事業の運営が行われている。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	すでに市内全域に会員を擁しており、広域的な読書活動の普及が期待できる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市内全域に会員を擁し、主催事業への参加者も多く、市立図書館と連携した事業展開が妥当である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	当該協議会の活動は市民の読書活動推進に貢献が認められ、その活動を支援していくことは妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 - 003

【1.基本情報】

事業名	コミセン巡回図書館				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	地域における図書館サービスの拡大・充実を図るため、コミュニティーセンターにおける図書館サービスを実施する。	
事業の内容	図書室のないコミュニティーセンター(5箇所)への巡回による本の貸出、返却及び予約図書の受け渡し。 巡回時に予約本を受け取れなかった利用者への窓口業務等をコミュニティーセンターの指定管理者への委託。	
事業の対象	何を	市立図書館資料
	誰に (対象者・対象者数)	市民
	どのくらい (具体的 数値で)	図書資料の充実と利用者数の増加
令和元年度 (実施内容)	図書室のないコミュニティーセンター(5箇所)へ木曜日と日曜日の隔週に司書が巡回し、本の貸出、返却、予約図書の引き渡しを行った。巡回時に予約本を受け取れなかった利用者には、コミュニティーセンターの指定管理者に受け渡し業務を委託して、受け渡しを行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	0		0		0	
嘱託職員	5,006	486	5,129	498	5,179	498
アルバイト	0		0		0	
計(A)	5,006	486	5,129	498	5,179	498

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		1,889	1,889	1,889
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託料	1,789	1,789	1,806
	消耗品	100	100	0
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		1,889	1,889	1,889

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	6,895	7,018	7,068

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	6,895	7,018	7,068

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	利用者	利用者	利用者
受益者数	2,613	3,698	4,991
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	2,639	1,898	1,416

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	巡回実施数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	243	249	233
実績値	243	249	233

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	貸出数	単位	冊
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	4,500	6,100	9,200
実績値	6,006	9,101	10,294

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	図書館の利用が困難な市民に等しく図書館サービスを提供する当該事業は市が実施すべきである。 図書館の利用が困難な高齢者や障がい者、交通弱者などに等しく図書館サービスを提供することは必要である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	図書館から遠い地域での図書の貸出サービスの向上のためには、地域に密着しているコミュニティーセンターとの連携が必要である。 コミュニティーセンターは指定管理者であり、連携が必要である。ボランティアの活用ができるかは、これからの実績をみてから検討する。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	利用者の更なる増加と資料充実を図る
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	図書館の利用が困難な高齢者や障がい者、交通弱者などに等しく図書館サービスを提供することは必要である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	図書館機能の拠点をして、予約本の受取やブックポストの利用が市民に定着してきており、今後も継続していく。

事業評価シート

番号 | 2060090 | 004

【1.基本情報】

事業名	乳幼児読み聞かせ事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じたいきがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市・ボランティア	
実施期間	平成15年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	子どもの健やかな成長を願って、乳幼児から絵本を介して日常的に親子のふれあいを深めてもらおうという、子どもの読書活動、子どもの健全育成、地域による子育て支援を積極的に推進し、心豊かな社会を実現する。	
事業の内容	南・中・北の3市民健康センターの10ヵ月健康診査時に、受診する親子に対して、図書館と市民ボランティアとの連携により、読み聞かせの大切さをPRし、図書館の本を貸し出す。全国に広まるブックスタート事業と同様の趣旨のもとに展開している。	
事業の対象	何を	赤ちゃん絵本と離乳食などの育児支援に関する本の貸出・乳幼児期の読み聞かせの大切さの啓発
	誰に (対象者・対象者数)	乳幼児とその親
	どのくらい (具体的 数値で)	岐阜市内の10ヵ月児全員
令和元年度 (実施内容)	各市民健康センターで10ヵ月健康診査を受診する親子に対して、一か月に2回ずつ、年間合計66回読み聞かせを行い、その大切さを啓発するとともに赤ちゃん絵本や離乳食などの育児支援関連本の貸出しを、ボランティアと連携して行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	1,141	36	2,282	72	2,244	66
嘱託職員	371	36	742	72	686	66
アルバイト	166	36	331	72	310	66
計(A)	1,678	108	3,355	216	3,241	198

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		764	741	806
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	絵本購入	602	579	645
	ボランティア経費	50	50	50
	消耗品	112	112	111
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		764	741	806

(3)総=79

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,442	4,096	4,047

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,442	4,096	4,047

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	乳幼児とその親	乳幼児とその親	乳幼児とその親
受益者数	3,086	2,866	2,678
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	791	1,429	1,511

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	絵本といっしょ事業による新規利用登録者	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	400	300	250
実績値	299	267	183

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	絵本といっしょ事業による絵本の貸出し	単位	冊
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2,000	2,000	1,500
実績値	1,676	1,668	1,150

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	親子のふれあいや子どもの読書活動の推進は、行政として積極的に取り組んでいく施策である。 親子のふれあいと図書館利用の機会づくりであり、地域の密着した市の図書館が実施するのが妥当である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	保健センターと図書館とが連携して、子育て支援や子ども読書活動の推進のための施策として実施することにより、子どもの健全育成と心豊かな社会の実現につながる。 意欲あるボランティアの参画、協力を得て事業を実施する手法は妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	乳幼児の頃から、親子がふれあう機会として、絵本の読み聞かせを推進してきた。親子が時間を共有し、コミュニケーションができる手段として有効であり、乳幼児を持つ保護者が興味を持ってきている。図書館へのおはなし会の参加にも効果がある。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	この10ヵ月健診は乳幼児のほとんどが受診していると思われるため、保健センターの協力を得て、PRできている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	絵本をとおして親子のコミュニケーションに活用できることを伝え、図書館を活用して絵本を借りたりおはなし会に参加する意識を広めていく。

事業評価シート

番号 2060090 - 005

【1.基本情報】

事業名	ビジネス支援事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	図書館の持つ情報提供機能を生かし、ビジネスに関する情報を収集、提供するとともに、図書館の利用促進と地域の商工業の活性化、他部署・他機関との連携を図る。	
事業の内容	ビジネス支援セミナーの実施やビジネス相談窓口の設置、ビジネス関連情報の提供	
事業の対象	何を	ビジネスに有益な情報および図書などの資料提供と支援機関への橋渡し
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市民および通勤の市民
	どのくらい (具体的 数値で)	年4回のセミナーと、週2回の相談会、通年のビジネス情報展示
令和元年度 (実施内容)	創業を支援するセミナーと創業・経営相談会の実施、事業運営に役立つ資料の提供と展示による広報	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	222	7	254	8	136	4
嘱託職員	1,051	102	1,020	99	1,050	101
アルバイト	0		0		0	
計(A)	1,273	109	1,273	107	1,186	105

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		208	141	115
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	105	60	30
	消耗品費	94	74	76
	会場使用料	9	7	9
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		208	141	115

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,481	1,414	1,301

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,481	1,414	1,301

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	市民一般	市民一般	市民一般
受益者数	450	335	310
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	3,290	4,222	4,198

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	ビジネス支援セミナー及び相談会の回数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	108	108	107
実績値	105	99	101

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	セミナー及び相談会参加者	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	460	479	472
実績値	450	335	310

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	国・県の施策を地域の実情に合わせて実施するために、市で実施するのが適当である。 国・県の施策を地域の実情に合わせて実施するものであり、幅広い利用者を受け入れられ、利用者にとって実施事業に参加がしやすい図書館で実施するのが適当である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	政府系金融機関や県、市の専門的な部門と連携して実施しており、現状の維持が望ましい。 起業体験等、相談窓口での相談内容をセミナーに反映させるために、民間人を講師に招いたり、紹介したりすることに努めており、妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	セミナー受講者が相談窓口を訪れたり、専門機関を訪ねたりするほか、関連情報を即時的に提供できるなど、ビジネス支援の入口としての役割を十分果たしている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受講・相談を希望する人のほぼすべてを受入れできており、公平である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	今後も、国・県・市の施策が有効に活用されるように、専門機関や民間事業者と連携し、市民に情報提供等を実施する役割が期待される。

事業評価シート

番号 2060090 006

【1.基本情報】

事業名	文学と歴史・物語のまち「岐阜」(旧:文学のまち「岐阜」)				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成18年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	図書館における所蔵資料の活用や各種関係団体との協力関係を構築し、郷土関連文学の掘り起こしを行い、幅広い年齢層に対して情報発信を進め、岐阜ゆかりの文学を伝承する。また、文学に縁のない世代が文学に親しみ未来へと続く文学のまちとなる土壌をつくるための活動を行う。	
事業の内容	岐阜関連文学に関する講演会や文学講座、自分史講座等の開催と関連する資料の展示。小学校や団体への読み聞かせボランティアの派遣や文学に親しむ機会となるイベント等を実施。	
事業の対象	何を	岐阜の文学に関する展示や講演会等の開催
	誰に (対象者・対象者数)	市民
	どのくらい (具体的 数値で)	講演会等を年に2, 3回開催する
令和元年度 (実施内容)	文学に親しむ機会となるイベント図書館文学部や夜の朗読教室の実施や自分史講座の企画。また、市内各地で行われるおはなし会に読み聞かせボランティアを派遣。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	317	10	317	10	340	10
嘱託職員	515	50	515	50	520	50
アルバイト	230	50	230	50	235	50
計(A)	1,062	110	1,062	110	1,095	110

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		319	320	237
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	120	120	40
	消耗品費	197	198	198
	食糧費	2	2	0
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		319	320	237

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,381	1,382	1,332

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,381	1,382	1,332

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	市民一般	市民一般	市民一般
受益者数	1,240	1,200	1,349
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,114	1,152	987

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	イベント実施回数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2	2	5
実績値	2	2	4

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	参加者数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	1,800	1,800	1,800
実績値	1,240	1,200	1,349

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は、市民が気軽に利用できる市の図書館が実施すべき施策である。 岐阜の文学や郷土の作家という市民の財産を図書館は保存、提供、活用していく役割を担っている。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	郷土に館れする資料を幅広く展示するため、歴史博物館などとも連携し、各種団体とも協力して実施する。 市民に親しみやすいイベントという形で情報提供し、市民ボランティアによる市民協働事業として実施する手法は妥当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	それぞれの年齢層を対象としてイベント等を実施し、幅広い年齢層への読書推進を図ることができる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	広く市民が参加しており妥当である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進のための施策として継続して実施することが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 - 007

【1.基本情報】

事業名	みんなの図書館おとなの夜学		
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード 1 - 5 - 0 - 0
実施方法	委託(民間)	補助の種類※	実施主体 岐阜市
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※

【2.事業概要】

事業の目的	岐阜ならではの慣習、生活の知恵、歴史的な経緯、地域文化など岐阜の奥深さを図書館から発信するため、市民協働を視野に入れて、市民目線でわかりやすく伝えるための多角的・多分野な講座を開催する。また、岐阜立図書館から全国に向けて、岐阜の魅力のアピールする試みとして、WEB動画を用いて講座の様子を情報発信し、過去の講座をブックレットにする。		
事業の内容	岐阜の地域文化に通じた様々な分野の専門家、その道の第一人者による対談やパネルディスカッションを実施する。		
事業の対象	何を	岐阜ならではの慣習、生活の知恵、歴史的な経緯、地域文化など岐阜の奥深さを伝えるための多角的・多分野な講座の開催及びWEB動画を用いて講座の様子を情報発信、およびブックレットの制作	
	誰に (対象者・対象者数)	一般成人・WEB動画視聴者	
	どのくらい (具体的数値で)	一般成人・WEB動画視聴者	
令和元年度 (実施内容)	<ul style="list-style-type: none"> ■“国盗り物語”から“麒麟”がくるへ ■美濃六庚申としょうけらナイト ■岐阜町に生まれた明治の天才クリエイター ■日本文化の真髄も、岐阜和傘が無ければ成り立たない!? ■古代氏族カモ・ムゲツ氏をめぐる風景 ■再・岐阜は名古屋の植民地!? ■岐阜に生まれた美の巨人、原三溪 ■信長公の人形遣い(中止) 		

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	127	4	127	4	119	4
嘱託職員	82	8	41	4	36	4
アルバイト	0		0		0	
計(A)	209	12	168	8	155	7

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託料	1,996	2,200	2,274
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		1,996	2,200	2,274

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,205	2,368	2,429

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			53
計(F)	0	0	53

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,205	2,368	2,376

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	一般市民等	一般市民等	一般市民等
受益者数	388	371	364
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	5,684	6,383	6,529

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講座の開催		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	8	8	7
実績値	8	8	7

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講座の参加者		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	400	400	350
実績値	388	371	364

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民のシビックプライドの醸成のための役割を担っておりニーズに合っている。 岐阜市ならではの生活・文化等を学ぶ場であり、国・県が主体になるものではなく、まちづくりに詳しいNPOに業務を委託している。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	図書館の人気講座となっており、費用対効果は高い。 NPOとの協働事業として実施している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	毎回、人員を確保できており、市民にとって魅力ある事業と位置付けられる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は一般成人およびWEB動画視聴者であり適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	多くの参加者が集まる人気講座として定着しており、市民のシビックプライド醸成に資する役割として今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 008

【1.基本情報】

事業名	子ども司書育成				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成27年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	子ども同士の関係性の中で読書文化の普及を進めるため、子ども司書としてそれぞれの学校のなかで読書推進の原動力となる子どもを育成するとともに、子どものソーシャルスキルの向上や独創性開発を図る。	
事業の内容	専門家を講師として招き全16回程度の子ども司書育成講座を行う。	
事業の対象	何を	子ども司書養成講座の受講及び認定
	誰に (対象者・対象者数)	小学校高学年から中学生
	どのくらい (具体的 数値で)	小学校高学年から中学生(20名程度)
令和元年度 (実施内容)	市内の小中学校の小学4年生から中学3年生を対象に募集したところ、多数の応募があり、抽選で20名決定した。7月～8月に4回16コマの講座を行い、12コマ以上を出席した20名を子ども司書として認定した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	95	3	95	3	102	3
嘱託職員	72	7	72	7	73	7
アルバイト	0		0		0	
計(A)	167	10	167	10	175	10

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		70	70	70
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	70	70	70
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		70	70	70

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	237	237	245

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	237	237	245

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	小中学生	小中学生	小中学生
受益者数	20	20	20
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	11,860	11,860	12,240

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	子ども司書養成講座		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	16	16	16
実績値	16	16	16

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講座の参加者		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	20	20	20
実績値	20	20	20

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	子どもの読書啓発のためには、友人同士の読書の広がりがあるが効果的である。 学校現場での読書推進リーダーの育成を目的としており、市立小中学校を管轄する岐阜市(市立図書館)が事業を行う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	1年間に育成する司書は20人とそれほど多くはないが、その後図書館や学校での活動などにつながり効果が高い。 必要十分な講座を行っており他に効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	子ども同士の関係性の中で読書文化の普及を進めるため、子ども司書としてそれぞれの学校のなかで読書推進の原動力となる子どもを育成するとともに、子どものソーシャルスキルの向上や独創性開発を図っている。 人気の高い講座であり、例年抽選となっている。修了した子どもたちがすでに活躍しており、魅力ある事業である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は小中学生であり、負担額もゼロであるため適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	子どもの読書推進に資するほか、子どもの社会性を育む事業として、今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 - 009

【1.基本情報】

事業名	子どもラジオ放送				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成28年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	平成27年度より養成している子ども司書に情報発信の場を与え、情報発信の手法やその面白さをラジオ放送のための企画会議や自らが実際の放送を行うことにより、子どもたちに楽しみながら学んでもらい、自発的な意思を育成していく。このような情報発信力を醸成することで子ども司書の活躍の場を学校図書館にも広げていくことを目指す。	
事業の内容	子ども司書が企画会議を経て、番組を作成。自らがパーソナリティとなり、ラジオ収録を行い館内やFMわっちで放送を行う。なお、本事業はぎふメディアコスモスで事業展開している「てにておラジオ」と連携している。	
事業の対象	何を	子ども司書によるラジオ放送を活用した情報発信
	誰に (対象者・対象者数)	子ども司書(小学生高学年から中学生)
	どのくらい (具体的数値で)	小学生高学年から中学生(40人程度)
令和元年度 (実施内容)	毎月、最終日曜日に子ども司書の企画立案によるラジオ放送をてにておラジオにて実施した。また、FMわっちにおいて、その番組の録音を放送した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	539	17	634	20	408	12
嘱託職員	196	19	206	20	250	24
アルバイト	0		0		0	
計(A)	735	36	840	40	658	36

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		113	123	123
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託料	113	123	124
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		113	123	123

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	848	963	781

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	848	963	781

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	小中学生	小中学生	小中学生
受益者数	20	20	20
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	42,380	48,150	39,030

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	子どもラジオ放送の実施		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	12	12	12
実績値	12	12	12

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	子ども司書の参加		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	20	20	20
実績値	30	20	20

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	子ども司書講座を修了した子どもたちの活動の場であり、国、県が主体になるものではない。 学校現場での読書推進リーダーの育成を目的としているため、市立小中学校を管轄する岐阜市(市立図書館)が事業を行う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	子ども司書講座修了の子どもたちが活動する場であるため、効率的な事業である。 当該事業は子どもたちと市民団体との協働を基本趣旨としている。メディアコスモスにて公開放送を行う市民ラジオ「てにておラジオ」への業務委託を行っている。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	子ども司書に情報発信の場を与え、情報発信の手法やその面白さをラジオ放送のための企画会議や自らが実際の放送を行うことにより、子どもたちに楽しみながら自発的な学びあいを通して、表現力・創造力を育成していく。このような情報発信力を醸成することで子ども司書の活躍の場を学校図書館にも広がることを期待している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	子ども司書は、公募にて募集しており、受益者として適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	子どもの情報発信力を高め、活躍の場を与える事業として、今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 010

【1.基本情報】

事業名	作家と語ろうin岐阜(旧 著者に会いたい)事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成28年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	市民に作家や作品の魅力を伝え、作品への興味を持ち読書に親しむことの大切さを啓発する。	
事業の内容	普段、作品を通じてしか接することのできない作家を招いて語ってもらうことにより、作家の作品のみならず作家自身の魅力に触れる機会をつくる。作家を知り、作品の理解を深め、興味をもつきっかけとなるようなイベントを行う。	
事業の対象	何を	作家の講演会
	誰に (対象者・対象者数)	市民
	どのくらい (具体的 数値で)	年に2回程度
令和元年度 (実施内容)	作家のこだわりや経験など作家自身に関わることや作品に関わることをお話しいただく小さな講演会を開催した。同時に関連展示を行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	317	10	159	5	170	5
嘱託職員	206	20	103	10	104	10
アルバイト	0		0		0	
計(A)	523	30	262	15	274	15

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		369	324	196
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	300	300	150
	旅費	68	23	46
	食糧費	1	1	0
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		369	324	196

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	892	586	470

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	892	586	470

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	市民一般	市民一般	市民一般
受益者数	121	95	70
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	7,372	6,163	6,714

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催回数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2	2	2
実績値	2	1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	参加者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	130	100	100
実績値	121	95	70

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は公立図書館が実施すべき施策である 市民が気軽に利用できる市の図書館が実施すべき施策である
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的な連携が可能であれば連携は必要 市民の参加が可能な場面では協働で行うことは必要
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	市民の事業への参加が読書活動につながり、読書の普及に期待できる
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	多くの市民が参加しており、妥当である
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進のための施策として継続して実施することが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 011

【1.基本情報】

事業名	図書館発！まちづくり事業				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じた生きがいがづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成29年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	本棚のあるまちづくりを推進するため、市民を対象とした講座を行ったり、市民文庫を中心市街地に設置するなどし、本を媒介に人と人がつながる場をつくることを目的とする。	
事業の内容	図書館が商店街の中に本棚を置いて定期的に特集展示を行ったり、お店などに本棚を置きたいと考えている店主を対象に本のある空間づくりをテーマとした講座を行い、本を通じて人と出会い、本を交換しながら人を繋いでいく活動を市民に推進していく事業。	
事業の対象	何を	専門家を講師として
	誰に (対象者・対象者数)	一般市民
	どのくらい (具体的 数値で)	ライブラリアン養成講座 年1回 特集展示年6回
令和元年度 (実施内容)	「あい愛ステーション」に司書による企画展示を行い隔月で入れ替えを行うほか、先進的な取り組みをしている講師を招き、商店主らを対象に講座を行った。また、ぎふまちライブラリーを運営する商店主と本を通じて交流するイベントを行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	95	3	95	3	68	2
嘱託職員	10	1	10	1	73	7
アルバイト	0		0		0	
計(A)	105	4	105	4	141	9

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		141	175	153
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	運営費	140	140	70
	会報発行費	1		48
	費用弁償			35
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		141	175	153

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	246	280	294

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	246	280	294

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	一般市民	一般市民	一般市民
受益者数	10	6	68
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	24,640	46,733	4,321

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講座開催		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	2	2	1
実績値	2	2	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講座参加者		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	10	10	50
実績値	10	6	68

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	本を媒介とした市民のコミュニケーションを目的としており、ニーズに合っていると考えられる。 地域に密着した図書館として、市が担う必要があると考えられる。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	多くの市民が本と出会う場の創出につながるものとして費用対効果は適正である。 本を専門とする市立図書館が主体となって行うべき事業であり他に効率的な方法はない。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	人員を確保できており、アンケートに答えた参加者の多くが「満足」としている。市民にとって魅力ある事業である。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受益者は一般市民であるため適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	地域に密着した図書館として存在感を高め、地域の活性化に資する事業として、今後も継続していくことが妥当である。

事業評価シート

番号 2060090 012

【1.基本情報】

事業名	本de子育てカフェ				
担当部名	市民協働推進部	担当課名	図書館		
未来地図政策	生涯を通じたいきがいづくりの推進		政策コード	1 - 5 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成29年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

【2.事業概要】

事業の目的	図書館では、子育て世代の利用が増えており、子どもを育てる場として市民に受け入れられつつある。そうした中、手探りで育児に奮闘する親たちに、各家庭における子育てのヒントとなる情報発信を行う。	
事業の内容	乳幼児、児童、中高生など、様々な子どもの親を対象に、子育て等の専門家による「本と子育て」をテーマとした講座を行う。	
事業の対象	何を	専門家による講演会等
	誰に (対象者・対象者数)	市民一般
	どのくらい (具体的 数値で)	年に3回
令和元年度 (実施内容)	作家や本に関連する専門家がワークショップや読み聞かせ等、子どもを対象のイベントを年3回行う。同時に関連展示を行った。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	63	2	95	3	136	4
嘱託職員	41	4	93	9	114	11
アルバイト	0		0		0	
計(A)	105	6	188	12	250	15

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		231	231	231
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	230	230	230
	食糧費	1	1	1
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		231	231	231

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	336	419	481

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	336	419	481

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	市民一般	市民一般	市民一般
受益者数	204	184	216
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,645	2,276	2,229

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催回数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	3	3	3
実績値	3	3	3

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	参加者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	240	180	220
実績値	204	184	216

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	市民の読書活動の普及や生涯学習の推進は公立図書館が実施すべき施策である。 市民が気軽に利用できる市の図書館が実施すべき施策である
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的な連携が可能であれば連携は必要である。 また、市民の参加が可能な場面では協働で行うことは必要である。 専門家への講師を依頼している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	それぞれの世代の子育て層を対象とした講演を実施し、子育ての参考となるよう支援している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	それぞれの世代の子育て層を対象とした講演を実施しており、広く市民が参加している。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	子育ての支援として、今後も継続していく。